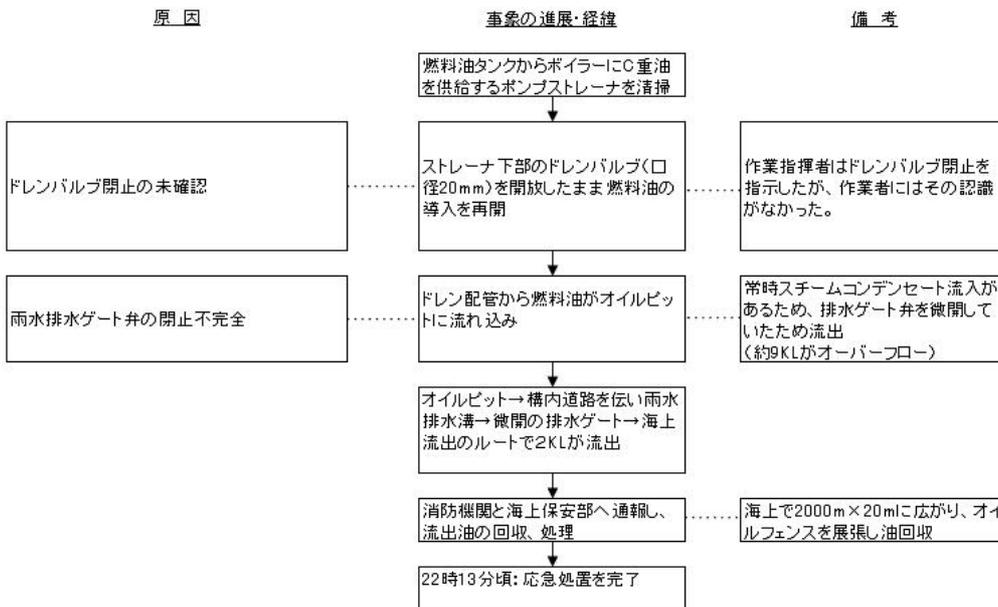




ボイラーの重油ストレナドレンバルブより漏洩し海上流出

事象進展図

00091	ボイラーの重油ストレナドレンバルブより漏洩し海上流出
発災年月日	2001年10月25日
装置	ボイラーに重油を供給するポンプストレナを清掃
運転状況	燃料油タンクからボイラーに重油を導入
特徴	ポンプストレナを清掃後ドレンバルブ開放したまま燃料油の導入を再開



再発防止策
①ドレンバルブ等の開操作ではその場を離れず、必ず同じ操作者が閉止する。 ②閉止未確認防止対策として、バルブ札掛けの実施。 ③オイルピットまでのドレン配管を撤去し、ドレンバルブ先端をキャップ止めとした。 ④作業変更時はその管理を徹底する。 ⑤排水ゲートを常時閉止とするため、排水は水中ポンプでコンデンセートを汲み出すよう改善した。
安全専門家コメント
①ストレナの清掃で製油所の従業員が関わることは、 (1)前後のバルブを閉としてドレンアウトをし、バルブからの漏洩がなく、作業ができることを伝える。 (2)ストレナの詰まり状況を確認する。運転の基本情報として共有する。 (3)ストレナの組み立てが終了したことを確認し、ドレンバルブを開め、入口バルブを開けてバントアウトする。その後出口バルブを開けて通油する。 当該事例の従業員の関わりはわからないが、このような基本を守りたい。 ②バルブ操作の二重のミスにより発生した漏洩である。バルブは洩れるという安全の基本を教育する必要がある。

引き金事象発生の原因	事故の引き金事象	事故に関係した直接・間接要因
ストレナードレンバルブを閉止しなかった	ストレナードレンバルブが閉状態で漏洩	<<人的要因>>作業確認不足・ミス: 作業後のドレンバルブの開め忘れ <<設計要因>>機器・配管設計不良: ドレン配管がオイルピットまで延長されていたため、視認が困難 <<人的要因>>作業確認不足・ミス: 清掃後のオイルイン時の点検確認不足



ボイラーの重油ストレナードレンバルブより漏洩し海上流出

添付資料・参考文献・キーワード

参考資料（文献など）

・消防庁、屋外タンク貯蔵所のストレナーのドレンバルブ閉止の確認不十分による、C重油海上流出事故、危険物に係る事故事例 - 平成13年、P.696-698

▶ 添付資料



[図 C重油配管フローと流出経路 \(47 KB\)](#)

▶ キーワード(> 同義語)

- 🔑 側溝・ピット>ピット,側溝
- 🔑 土木・建築設備
- 🔑 フィルター>フィルタ,濾過器,ろ材
- 🔑 ストレナー

▶ 関連情報